

# 研究記事拾遺

次の「會集」及び「新保育期に當りて」の二篇はそれ／＼研究問題として當編輯部から各幼稚園に御回答を煩はしました時に戴いたものであります。何時も少数日子の間に速しくお尋ねをいたします爲めに、御回答下さいます幼稚園の方々には随分迷惑をおかけ申して居ること、恐縮に存じます。それで次の二篇は各研究記事の掲載されました號の編輯を締切りましたすぐ後に當部へ到着いたしましたのであります。掲載期の遅れましたことに就きましてお答へ下さつた二幼稚園の方々及び讀者諸氏にお詫びいたします（記者）

京都市 乾 隆 幼 稚 園

## 會 集

### ○趣 旨

朝の會集は各家庭に於ける一家族が朝の食事に會合する時の心もち、換言致しますれば、すがすがしい氣分と睦しい心持で、一園の者即ち保姆幼兒共に擧つて集合する間に、幼兒相互和親の心情を養ふと共に家族的より、進んで社會的生活に入る素地を作るのであります。

### ○方 法

△會集當番は各保姆毎日替りに致して居ります

（理由は幼兒に對し保姆は一樣である、先生には區別がないといふ、思ひを起させて、保育の効果を全ふさせたためであります）

△整頓 樂器の音につれ、各組の幼兒は步調を揃へて、遊戯室に馬蹄形に着座するのであります、（室は疊敷）

△敬禮 東に向つて（宮城の方）叮嚀にお辭儀を

致させまして「お早う」の歌を合唱させます

(此室は夜間柔道の稽古場にあてられてあるため、幸ひ東の壁に、やんごとなき御方のお寫真がかゝげてあります)

△沈黙 (沈黙は約一分までにして此間眼を閉ぢ、双手で目を掩はせます) 其時自然界の鳥のなくね、物の音、或は訓誡的の語(例、仲よくなさい、元氣よくなさい、能く出席しました)などを申しさかせます。

以上は大抵毎朝行ふ方法であります、以下の項目は其日々によりて異り、適宜行ふので御座います。

△唱歌 (訓話事項其他當日に關連する歌或は幼

兒の選擇希望によるものを唱はせます)

△談話 (保姆が致します時、又幼兒がする時も御座います)

△遊戯 各組替るゝ共同遊戯をさせます。

終りに筋肉の運動、行進、深呼吸をするのですが、深呼吸は自由遊戯に移つてから行はせます。其方法として、シャボン玉、吹玉(呼氣により玉を轉がす)たまの替りに鉛筆をふく時、風鞠を吹く等を採用してゐます。

右は大略ですが我園會集の實際で御座います尚季節や天候の具合、幼兒出席の多尠を見計らひ、其時に應せる保育を致して居ります、會集中の時間は十分乃至二十分であります。

## 新保育期に當りて

廣島縣

三原女子師範學校附屬幼稚園

(第一)年少、年長、各の組に對して、保育の計畫及實施上それ〴〵如何なる區別を立てらるゝや第一問に對して御答をするに當り、當園の組織附屬小學校との連絡及設備に就て一言説明を致して置く必要があると思ひます。

當園で滿四歳以上の組と滿五歳以上の組と二組を約四十名づゝ收容し、保育終了の後は直に之を附屬小學校の第一學年として、單式の一學級を編制することに致し、且つ附屬小學校の主事が當園の主事を兼ねて居ます。

次に室内設備につきては、遊戯室が一棟、保育室が二、家庭に準へたる疊敷の部屋が一、外に玩具室、保姆室、物置、砂場室が各一、四月からは食堂を一室設ける考であります(屋外設備としては天幕(固定)、藤柵其の下に室外保育机、砂場を設く)、運搬自在のテント一張、其の他、山、池、花園、動物、滑り台、ブランコ等普通の設備があります。

扱て年少部の方は全く共同生活を知らぬ自然の子供であります。其の子供に對して劃然的な保育を施すことの非なるは申すまでもありません、それで出来る限り家庭の生活を致させ度き方針であります、入園したての子供に非常な緊張感を起させ、疲勞を増し、又餘り別種な感情を刺戟して、特殊の氣分を惹起せしむるのは確に宜しくないと存じます。それ故に當園では、前に設備の處で申しました様に、家庭に準へたる疊敷の部屋が設けてございます、そこには家庭用の机、床の間、花瓶鏡臺、箆筒、ベビーオルガン等が置いてあります、家庭内にある部屋と等しく出来て居ります、箆筒の中には、人形や衣類や茶器其の他の玩具が收められて居ます、そして子供は此所で自由に遊ぶことが出来る様にしてあります。

又食堂も疊敷に致します考へですから、食事時間の外にも可成利用する積りで居ります。然し其の間保姆は保護的習慣的に誘導を怠つてはならぬ

と思ひまして、四方へ意を用ひて居ます。

子供をして家庭にて縁側か庭で母親と遊んで居る様な軽い心持をさせて置かうと致しますには保母其の人の心の計畫が大いに影響すること、思ひます、保母が子供に近より、子供が保母に近よつて、相互の心の合する所に、子供が保母を母親と思ふことが出来、又母と思はすことが出来るのであると思ひます、子供の行爲即ち保母の行爲となる様に子供を理解し、親切なる伴侶とならねばなりません。此意味に於て、幼年部に對しては以上の如き取扱ひをするのであります。

尙當園では屋外保育に重きをおいて居りますので、前申す通りの設備があります。殊に自然界との接觸には大分留意致して居りますので、隨所に遊ぶことを得る天幕を備へて、自然生活の誘導に骨を折つて居ます。勿論此等のことは、年長部にも適用致しますけれども、年少部の保育の大部分を占めて居るのであります。

唱歌は隨時隨所で、其の歌ふべき題目に出逢つた時に、範唱して聽かせ、反覆の中、自然に模唱せしむる様に致します。手技に致しましても、保母のしたもので模倣するか、保母にしてみらうかでありませんが、保母はこのとき全部して與へることはありません、どこか一部は幼兒の手を俟つてこしらへあげる様に仕向けてやります。勿論、微細なものは避けて、大筋の運動に注意を拂つて居ます實に此間に於ける手技は玩具的性質をもつたものであります、

保母は時々澤山簡單なものであそびものを作つて與へ、幼兒をして、それを觀察させ、手に觸れさせ、終に壞させます、斯様にして破壊しては組立、組立ては壞して遊んで居る内に、段々と幼兒は進んで參りまして、與へられた材料によつて、創作に取りかゝる様に誘導されるのであります。

年長部に致しましても、家庭的生活は勿論致さしますが、其の間に自然と等級がございまして、

比較的抵抗の強いもの、又は實事化されたものを連続的に系統的に導く様に致します。唯年少部に比して、自然的生活が稍減じて、實際生活と一齊的保育の時間とがすこし多くなつて來る様に致してあります。それは只年少部の如く、面白く遊ぶといふだけでなくして、實生活の基調となべきものを、一日の中一度は必ず行はせて居ます。

例へば、玩具の片附とか、各部屋の整頓裝飾の有様、自己及年少幼兒の容儀を整へしむること、動物飼養等が即ち之れであります。

而し前にも申した通り、附屬小學校との連絡がありますから保育終了期に近づくに従ひ、幾分規律的取扱をすることに致して居ります。

如何程幼稚園が小學校教育の準備でないといつても、前述の通り深き連絡をもつて居るからには此の點につき、相互に打合せをして、劃然的な區別のない様にするには必要であります。之を要するに年長部に於ては年少部の自然的生活に比し

て、多少規律的、鍛鍊的意味が加つて居ります。然し兩部共に、其の境界に於て差したる區別の立たぬものがあることは勿論であります。

### (第二)新入園兒に關する御經驗のいろ／＼

第二問に對しては、新入幼兒の取扱につき、私共のやつてゐることを申し上げまして、御批評を願ひます。従つて問題の意味に適中せぬかも知れませぬが、矢張り經驗の結果からの取扱であるから申し述べます。

入園すべき幼兒に接觸すること、

當校では、家庭統一の爲め、新入幼兒は附屬小學校及當園に籍を置いて在る兒童、幼兒の同一家庭のものに先入權を與へて居ります。其で凡そ毎年度に入園する幼兒が分つて居りますから、出來得る限り、其の幼兒と接觸する様に努め、事ある毎に其の機會を作つて居ります。例へば運動會、音樂會、母姉會、其の他、家庭訪問等の場合に於きまして、母姉の方々を知ると共に、その子供達を知り

尙其の上女中、子守等までをも知る事に努めて居ます、

つまり一家の方々と知り合になつて置くこと云ふ考へなのであります。其の目的と致します事は子供に我々を理解して貰ふと云ふことも一つであります、又我々に馴れて親しんでもらひたいと云ふことも其の一つであります。幼児が始めて入る共同生活で何處を見ても、他人の中に獨りはいつて來たと云ふ淋しさ、心弱さを感じることを避けさせ度いと思ひます。それでたゞ呑氣に、ノンビリと家庭で遊んで居た心持を失はずに生活がさせたいと思ひます。

それには保母が子供の心に一種の親しみの情を起させることが肝要であります。先生生徒と云ふ區別を立てると云ふことは好みません、

然し全體に残りなく接すると云ふことは不可能であります。そして出來難い事ではありますが、其の中の半數以内の幼児には、確に接し得る機會を

持ちます。

それでこれまで入園致しました幼児中には私共をおばさん、姉さんの如くに考へて、玩具をねだつたりする幼児もあります。それで斯くすることによつて、幼稚園の空氣が、學校的でなく、家庭的となつて來ると云ふことは確かであります。

保母及在園幼児の準備、

保母は入園すべき幼児の姓名を出來る限り速く覺えます、しかも姓のみでなく、名の方をよく覺え、名を呼ぶことに致します。名は大體入園許可の時に、幼児を見て記憶して置くか、入園式の時にも、又入園致しましたからも姓名を幼児につけさせて置いて覺えます。それですから入園前にすでにその姓名を知つて居る幼児がありますから都合がよろしいございます。その次に準備すべきことは遊戯に對してあります。これは私共で前から立案して居ます。そして在園幼児と共に、其の準備に懸ります。幼児達は新しい友を迎へるた

めに色々の希望、楽しみを持つて待つて居ます、始業式當日は式後年長幼児一同で遊戯、唱歌、お話等色々餘興の様なものをして見せます、保護者も子供も大なる満足を持つて歸ります、保育時間割、

學年始めの當分は午前中の保育でありまして、年長幼児も新入幼児も一所に遊び、一所の部屋で生活を致します。それでありますから全く組別がありません。年長部は自分達を兄姉の如くに心得て、年少部を引廻して遊びます。

この間に幼児相互が相知り又親しむと云ふ事になり、我々も幼児を知り幼児も我々を知り親しむと云ふことになりました、二三週間もしますと自然と組別になつて參ります。これから漸次私共の計畫に接近し、又それを施行することが出來ます。

#### 附添人

當園では附添人は一切附けさせぬことに致して居ます。たゞ或る特殊な子供には送迎だけは許し

ますが、保護者の方でも、こちらの方針を理解してくれまして、出来る限り、附けぬ様に努めて下さいます。其れで最初の一日は附いて參りますが、二日目からは幼児同志誘ひ合ふか、兄姉の登校の際、共に來ると云ふ風で、保姆や附添人を困らすものが、尠くなつて來た様に存せられます。

或は兄姉の人々が直ぐ一校舎を隔てたあちらの教室に居ると云ふ考があるので、多少心強いのかもしませんが、保育施行上には好都合であります。

考へて見ますのに、年々入園して參ります子供が進んで參つて居ると云ふことは事實の様に考へられます。始めの中は痛く泣いたものがございましたが、近年泣くのが尠くなつた様に考へられます。これも多少種々な會合によつて父兄、母姉の方々が幼稚園を知つて來られたと同時に、子供も幼稚園と云ふものを知つて來たのではないかと思ひます。